

{補足資料 25.11.19} 「王であるキリスト」

【旧約】

1 預言者の約束：

イザヤは、現実の王に失望して未来の王に目を向け、その誕生を祝っている（イザヤ 9:1-6 参照）。この王は、神の民に喜び・勝利・平和・義を与えるであろう。主の霊によって生きるこのエッサイの根株から出る“若芽”は、義の支配を実現し、国土は地上の樂園のようになる（11:1-9）。

2 約束実現の待望：

イスラエルの王制は、前 587 年に終わる。しかし、その体験はイスラエル民族の心に深い印象を残す。強制移住中、彼らは、ダビデ王朝が受けた恥辱^{ちじよく}の苦しみ（詩 89:39-52）、その復興を祈る（詩 80:18）。強制移住後のユダヤ人は、神権政体の形態のもとに再組織されたが、異教の王の権威に屈することになる。神の国を期待することは、終末的希望の核心をなす。そして、この待望のなかでは、きたるべき王は、つねに重要な場所を占める。

3 旧約時代末期：

ユダヤの全民衆は、終末的王の来臨を熱望するようになる。けれども、この待望は、神が最終的に支配するという宗教的世界を目指していながらも、全般的にはかなり政治色の濃いものである。というのは、イスラエルを異国の圧政から解放する公たるメシアを待ち望んでいたからである。

【新約】

I 王であるナザレのイエス

1 宣教生活時代 宣教生活中、熱狂的にメシアにしようとする群衆の欲求を受け入れたことは一度もない。ただ一度だけエルサレムへの勝利の入城のときには、「ロバに乗って」（マタイ 21:5）、イスラエルの王としての歓呼をゆるしている。

2 受難のとき（ヨハネ 19:10）

II 王である復活のキリスト

1 教会時代：イエスの王国は、地上のいかなる王国によっても表すことができない（コロサイ 1:13）。

2 再臨の時：キリストの王的支配が、^{げんじ}顕示される（黙示 11:15）